

令和4年度
第1回
学校評議員会



兵庫県立芦屋国際中等教育学校

目 次

I 次 第	1
II 名 簿	2
III 議 事	
1 20期生の状況	3
2 令和4年度の主な取組	4
3 創立20周年記念事業について	10
IV 今後の予定	13

令和4年度 第1回 学校評議員会

次 第

1 日 時

令和4年6月23日（木）9：30～11：30

2 場 所

県立芦屋国際中等教育学校 応接室

3 議 事

(1) 20期生の状況

(2) 令和4年度の主な取組

(3) 創立20周年記念事業

4 今後の予定

令和4年度 学校評議員会

名 簿

名 前	所 属 等
岡田 龍一	元阪神南地域教育推進委員
河合 優年	武庫川女子大学副学長
木場 修司	同窓会会長
鈴木 直子	元PTA会長
上田 多見子	元PTA会長
入江 幸太郎	PTA会長
荒井 ふみ	PTA副会長

※本校出席者

名 前	分 掌
磯村 要	校 長
藤川 明人	前期課程教頭
福畠 一良	後期課程教頭
谷元 浩好	事 務 長
植山 早紀	Ⅰ学年主任
山中 邦子	総務部

I 20期生の状況

(1) 入学試験について

出願者 317名

受験者 292名

(2) 20期生の国籍について

国籍	人数
日本	60
中国	5
韓国	3
フィリピン	2
日本・イタリア	2
イラン	1
キルギス	1
ネパール	1
パキスタン	1
日本・アメリカ	1
日本・イギリス	1
日本・カナダ	1
日本・韓国	1
合計	80

(3) 生徒の様子

2 令和4年度の主な取組

令和4年第3回学校評議員会での主な御意見等

- 1 生徒、保護者アンケートの結果で「芦屋国際中等教育学校で学ぶことができてよかった」が100%の結果を得たということは、この学校の素晴らしいところだ。
- 2 学校独自の強みをもっと発信していくべきだ。そのことが生徒の中だるみを解消していく手立てにもなるのではないか。
- 3 子ども多文化共生センターと連携し、交流活動の推進を図ってはどうか。

1 共生の心を育む学習活動

(1) AIタイムの実施

「総合的な探究の時間」において、自分自身や級友の出身国について調べ学習を行うとともに、文化祭や年度末の発表会で生徒発表を実施します。

年	生徒人数	授業回数	発表班数
1～3年	240名	週1回	4班

(2) 沖縄修学旅行、海外研修旅行の実施

行き先について調べ学習を行った上、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、望ましい集団生活や公衆道徳を学ぶ修学旅行を実施します。

年	生徒人数	行き先	形態
3年	80名	沖縄	ホームステイ 新
5年	80名	NZ	ホームステイ

※ コロナ禍の影響により、次のとおり変更して実施します。

6年修学旅行 NZ（昨年度中止）→長崎（4月）

5年修学旅行 NZ（本年度中止）→沖縄（11月）

2 弾力的で多様なカリキュラム編成と学習支援

(1) 日本語教育の実施

日本語を習得しようとする生徒に対して、生徒一人一人の発達段階に応じた日本語教育を実施します。

年	生徒人数	授業時間	教員数
1年	15名	週4時間	5人
2年	29名	週4時間	5人

(2) 外国語講師とのチーム・ティーチングの実施

日本語の習得が不十分な生徒に対する通常授業について、日本語教員や外国語講師と連携したチーム・ティーチング（1教室複数教員指導）を実施します。

年	生徒人数	教科数・時間数	教員数
1年	15人	9教科・22時間	8人
2年	19人	8教科・20時間	7人

(3) 習熟別少人数授業の実施

特定の科目について、習熟の早いグループから遅いグループまでクラスを少人数グループに分けて授業を実施します。

ア 国語

年	生徒人数	展開数	授業時間
3年	80人	3グループ	週3時間
4年	80人	3グループ	週4時間
5～6年	各80人	3グループ	週3時間

イ 英語

年	生徒人数	展開数	授業時間
1～3年	各80人	5グループ	週5時間
4～5年	各80人	4グループ	週5時間
6年	80人	4グループ	週6時間

(4) 英語4技能試験の実施

英語の「聞く listening」「読む reading」「話す（やり取り、発表）speaking」「書く writing」という4つの技能と5領域を評価するテストを実施します。

年	生徒人数	実施テスト	回数
3年	80人	スピーキングテスト	年2回
4～5年	各80人	GTEC（業者試験）	年1回

(5) ICTの活用

ICT（情報通信技術）を活用し、①生徒に分かりやすい授業、②生徒一人一人の能力や特性に応じた学習、③生徒たちが教え合い学び合う学習等を実施します。

ア 生徒端末の活用

年	生徒人数	端末	アプリ
1～3年	各80人	学校購入	クラッシー等

イ BYOD（生徒私物端末）の活用 新

年	生徒人数	端末	アプリ
4年	80人	生徒購入	クラッシー等

ウ プロジェクターの設置

年	設置場所	仕様	用途
1～6年	普通教室	天井吊り下げ	授業、オンライン集会

エ オンライン授業の実施

年	対象生徒	対象授業	受講方法
1～6年	コロナ陽性生徒等	体育等を除く授業	家庭での視聴

(6) 編入学考査の定期実施

生徒の定員に欠員がある場合、編入学考査を定期実施し、合格者について1学年の途中又は2学年以上に入学を許可します。

人数	対象生徒	回数
欠員数	外国人生徒・海外帰国生徒	前期12回・後期6回

3 主体的な進路実現への支援

(1) 多様な体験活動の実施

キャリア教育の一環として多様な体験活動を実施し、生徒が自らの力で生き方を選択するのに必要な能力や態度を身に付けさせ、キャリア形成を支援します。

年	生徒人数	活動	日数
1年	80人	田植え・民芸体験	1日
2年	80人	トライやるウィーク	5日
4～5年	若干名	県庁インターンシップ	5日
4～5年	若干名	ふれあい看護体験	1日

(2) 技能審査の成果の単位認定

検定試験等、技能審査の受験を奨励するため、その成果に基づいて、学校で修得した対応する後期科目の単位を増加して認定します。

技能審査の例	級・スコア	対応する科目	増加単位
実用英語技能検定	2級以上	コミュニケーション英語I	2～4単位
GTEC	501点以上	コミュニケーション英語II	2～3単位
TOEFL	460点以上	コミュニケーション英語I	2～4単位
漢字能力検定	2級以上	国語総合	2～4単位

4 心の教育の推進

(1) カウンセリングの実施

校内にカウンセラーを配置し、生徒、保護者、教職員等のカウンセリングを行い、アドバイスや情報共有等による心のケアを実施します

年	生徒人数	配置人数	配置日数
1～3年	若干名	1人	年35日
4～6年	若干名	1人	年13.5日

(2) 特別支援教育の巡回指導 **新**

通級担当教員が本校を巡回し、本校の特色と生徒のニーズに応じた取り出し授業を実施します。

年	生徒人数	通級担当教員数	回数(時間)
4～6年	若干名	1名	週1回(1時間)

5 交流活動の推進

(1) アートマイル国際協働学習プロジェクトの実施

文部科学省の協力により、海外の高校の生使と世界共通の課題についてオンラインで学び合い、メッセージを込めた壁画を共同制作します。

年	生徒人数	海外校	回数
3年	80名	インドの高校	3回

(2) オンライン交流の実施

県国際交流協会の協力により、海外の高校の生使と学校紹介や行事紹介などをオンラインで実施します。

団体	生徒人数	海外校	回数
ESS部	11名	台湾の高校	3回

(3) 姉妹校交流の実施

海外高校と姉妹校提携を結び、海外修学旅行での訪問交流や相手校の来日による受入交流を実施します(コロナにより中止)。

姉妹校	訪問交流	受入交流	受入生徒
NZの高校	5年の修学旅行	姉妹校来日時	日本語クラス生徒

6 開かれた学校づくりの推進

(1) 学校評議員会の設置

家庭・地域・学校が一体となって生徒の健全育成を担うため、保護者や地域住民の意向を把握・反映しながら学校運営を進める観点から学校評議員会を設置します。

評議員数	学校出席者	回数	内容
7人	管理職4人	3回	主な取組等

(2) PTAとの連携・協力

家庭と学校の連絡を密にして、家庭と学校と社会における生徒の幸福な成長を図

ることを目的としてPTAとの連携・協力を推進します。

ア PTA運営委員会への出席

運営委員数	学校出席者	内容	回数
約 20 人	管理職 4 人	PTA事業の運営等	8 回

イ PTA校内ツアーの実施 **拡**

ツアー参加数	学校出席者	内容	回数
59 人	管理職 3 人	学校施設の案内等	3 回

ウ 「校長日記」の公開 **新**

公開場所	執筆	内容	目標回数
PTAのHP	校長	日々の雑感	200 回

エ 多言語相談員の活用 **新**

事業	連携	対象	内容
県教育委員会	子ども多文化共生センター	外国人生徒・保護者	面談等の通訳

7 働き方改革の推進

(1) 校内委員会の活性化

少数の教員に業務が集中しないよう役割分担を進め、業務の適正化・明確化を計るため校内委員会を活性化します。

委員会	内容
ICT推進委員会 新	教員用・生徒用端末の管理等
日本語教育委員会 拡	外国語講師との連携等

(2) 校内ICTシステムの整備

教育関連事務や含む事務等についてICT化し、教員の業務の負担軽減を図り、生徒に向き合う時間を確保します。

システム	内容
総務事務システム 拡	出張管理、サービス管理等
校務支援システム 新	生徒の出席管理、成績処理等

(3) ペーパーレス化の推進

情報共有等に使用する文書を電子化することにより、環境に配慮するとともに情報共有や意思決定の迅速化・合理化を図ります。

項目	内容
職朝フォルダ活用	朝の職員打合せ連絡事項の保管
職員会議フォルダ活用	職員会議配付資料の保管
電子規定集作成 新	教務内規等、校内規定の電子化

(4) 校内研修の充実

項目	内容
BYODアプリ研修 新	BYODで活用するクラッシーの紹介
特別支援教育研究授業 新	通級による指導
特別支援教育研修 新	通級を含む、特別支援教育全般
カウンセリングマインド研修	児童生徒の自殺予防
人権研修	ハンセン病問題

(5) 若手教員等の支援

項目	内容	回数
教員採用試験研修会	管理職による面接等の指導	5回
新聞教材の配布 新	新聞教材「校長回読」の配布	150回

3 創立20周年記念事業

1 趣 旨

兵庫県立芦屋国際中等教育学校が令和4(2022)年度に創立20周年を迎えるにあたり、生徒に「芦国生」としての自覚と自信を育てるため、多文化共生社会を実現する人物を育成する本校教育の魅力・特色を発信する記念事業を実施する。

2 記念式典・記念行事

(1) 日時場所 令和4(2022)年10月29日(土) 10:00~15:00 本校体育館

(2) 時 程

記念式典	10:00 ~10:50	開会挨拶：木場 修司 実行委員会委員長(同窓会長) 国歌斉唱 式 辞：磯村 要 校長 県教育委員会挨拶：村田かおり 兵庫県教育次長(予定) 来賓祝辞：いとうまい 芦屋市長(予定) 来賓紹介 祝電披露 生徒挨拶：森田ひら梨 生徒会長 校歌斉唱 閉会挨拶：入江幸太郎 実行委員会副委員長(PTA会長)
記念行事① 基調講演	11:05 ~11:55	講 師：廣木 重之 前スウェーデン特命全権大使 演 題：(未定)
昼 食		
記念行事② アトラクション	12:50 ~13:40	出 演：文化部?(未定)
記念行事③ シンポジウム	14:00 ~15:00	テ ー マ：「芦国生」に期待されること(仮) コーディネータ：溝口 繁美 第3代校長(元兵庫県教育次長) シンポジスト：河合 優年 学校評議員(武庫川女子大学副学長) 明山 修 本校開設担当(元県立篠山鳳鳴高等学校長) 樋口 正和 元子ども多文化共生センター所長(元県立宝塚西高等学校長) 森田ひら梨 生徒会長 中城 稀帆 生徒会後期副会長

3 関連事業

(1) 記念誌

表 題：20th Anniversary 創立20周年記念誌

内 容：直近10年の記録を中心に編集(分量は創立10周年記念誌と同程度)

(2) 記念品

校名・校章等の入った記念品(予算も含めて未定)

(3) 記念祝賀会

日 時 令和4(2022)年10月29日(土) 18:00~20:00

場 所 ホテル北野プラザ六甲荘 神戸市中央区北野町1丁目1-14

創立 20 周年記念事業の準備

組織		記念式典・行事係 基調講演・シンポジウム	記念誌	記念品 生徒行事アトラクション係
		総務部 (3年・4年)	学習支援部 (1年・2年)	生活支援部 (5年・6年)
内容		<ul style="list-style-type: none"> ・式典出席者、来賓名簿の作成 ・式典の次第作成 ・進行計画の作成 ・式場のレイアウト 	<ul style="list-style-type: none"> ・記念誌作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・記念ロゴ作成 ・記念品作成 ・生徒行事指導
2022	5月	<ul style="list-style-type: none"> ・記念行事必要物品リスト作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・原稿依頼開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン等募集開始
	6月	<ul style="list-style-type: none"> ・案内状の原稿決裁 ・招待者リストなど決定 ・式次第入稿 ・案内状印刷と発送 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真整理 ・原稿整理 ・データ入稿① ・第1回校正 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロゴデザイン決定 ・アトラクションの企画検討 ・講師事前打合せ（生徒、教員）
	7月	<ul style="list-style-type: none"> ・会場のレイアウト素案 ・体育館の椅子個数確認 ・来賓等参加人数確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・データ入稿② ・第2回校正 	<ul style="list-style-type: none"> ・記念品発注 ・生徒行事企画指導
	8月	<ul style="list-style-type: none"> ・当日の役割検討 ・式次第原案決定 ・進行表完成 ・司会原稿完成 	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回校正（最終） 	
	9月	<ul style="list-style-type: none"> ・案内状の回収 ・出席者確認 ・式次第印刷 		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒挨拶文指導 ・生徒行事企画指導
	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・記念式典、行事 	<ul style="list-style-type: none"> ・記念誌完成 	<ul style="list-style-type: none"> ・記念品納品

頁	項目	内容	写真	原稿	備考
1	見開き	見開き表紙			
2	学校概要	校章、校訓、教育目標	◎		
3		校歌（曲譜）			
4		沿革			平成15年から
5	挨拶	校長挨拶	校長	○	
6		教育長挨拶	教育長	○	教育長の写真依頼
7		芦屋市長挨拶	市長	○	市長の写真依頼
8		PTA会長挨拶／同窓会会長挨拶	2会長	○	両会長の写真依頼
9		生徒会長挨拶	会長	◎	会長写真（2021会長）
10	本校の現状	2022年本校の現状	◎		ページ数は全体の内容に応じて
11		2022年本校の現状	◎		
13	校譜	2013（11回生）	◎	○	
14		2014（12回生）	◎	○	
15		2015（13回生）	◎	○	
16		2016（14回生）	◎	○	
17		2017（15回生）	◎	◎	
18		2018（16回生）	◎	◎	
19		2019（17回生）	◎	◎	
20		2020（18回生）	◎	◎	
21		2021（19回生）	◎	◎	
		2021（20回生）	◎	◎	
22	行事紹介	1学期	◎		
23		2学期	◎		
24		3学期	◎		
25		文化祭	◎		
26		修学旅行（前期・後期）	◎	◎	
27		体育大会ほか	◎	◎	
28	特色ある教育	学習支援・進路指導	△		
29		日本語教育	△		
30		生活支援・保健	△		特にコロナ下での対応について
31		総合（特にAI）	◎		
32		地域交流	◎		
33		その他の特色ある教育	◎		
34		部活1	△	◎	集合写真＋生徒メッセージ
35		部活2	△	◎	
36		部活3	△	◎	
37		部活4	△	◎	
38	活動報告	PTA	△	○	PTAに原稿依頼（A4版1枚）
39		同窓会	△	○	同窓会に原稿依頼（A4版1枚）
40		生徒会執行部	△	◎	新会長挨拶を含む
41	資料	在籍者数（国別等）			
42		卒業後の進路状況			
43		教育課程表			
44		職員録1			
45		職員録2			
46		職員録3			
47		職員録4			
48					同窓会もしくは生徒会を最後に移行

今後の予定

1 第1回学校評議員会の概要送付

日 程 7月中旬

2 創立20周年記念事業実施

日 程 10月29日(土) 10:00~15:00

場 所 県立芦屋国際中等教育学校 体育館

3 第2回学校評議員会

日 程 2月下旬

場 所 県立芦屋国際中等教育学校 応接室